

音楽教育とハイテク

鈴木 寛 (兵庫教育大学教授)

人間のコンピュータ化 = 絶対音感 (2)

前号で絶対音感は優れた音楽的才能かという疑問を感じた読者もあれば、やはり絶対音感は優れた才能であると感じた読者もあるでしょう。

コンピュータが音を聞き取るプログラムは複音でなければかなりの精度のものがすでにあります。コンピュータは複音に対して聞こえる音すべてに反応するようになっていきますので聞こえる音の倍音にまで反応するため、トライアングルやチャイムのように単音でも顕著に倍音が聞こえるような音に対しては複音として反応してしまうのです。

ありそうでないソフトに「アナログ演奏を採譜する」というものがあります。ローランド社の「はなうた君」やCP-40はアナログ→MIDI変換を単音に限りかなりの信頼度で実行しますが、ビブラートや歌詞のような音色変化を伴う単音は苦手です。ピアノのようにビブラートが無くて比較的倍音の少ない音の場合複音でも検知できる一歩手前までは来ているようですが、今世紀には間に合いそうにはありません。

要するに人間の聴覚は単に物理的に反応するだけではなく、心理的に反応しているためその部分がコンピュータ化できないのです。コンピュータの唯一の音感「絶対音感」であって、認知心理学的には「音高認知」と呼ばれるものですが、もっと正確には「認知」ではなく「知覚」とされています。つまり思考回路を経由せず反射的に反応するからなのです。

絶対音感者の最大の悩みは「ながら族」になれないことです。例えば本を読みながら音楽を聴くとか、運転しながら音楽を聴くと言うことがとてもつらいのです。耳が常に音に反応してしまうためいつも「耳をすました」ような状態になってしまうのです。このことはバッハ等の複旋律の音楽を聴くのに大きなハンディキャップとなるばかりか、旋律とベースの相対的な関係の把握などに大きな障害となります。つまり、一つ一つの音の高さは極めて正確に把握できるのに、複数の音の連続的關係やフレーズとか音楽的シラブルなどの大づかみな構造的把握がしづらくなってしまふからなのです。「木を見て森を見ず」の状態なのです。

絶対音感が「音高知覚」ならば相対音感は「音程認知」といいます。絶対音感が「同定」の能力なら相対音感は「比較・類推」の能力です。

ここで重大なことを述べなければなりません。マリーシェーファー等の提唱する「サウンドスケープ」や12音技法以降の無調、無構造の音楽と厳格なクラシック音楽で

は同じ音楽でも音の持つ意味が違うのです。

厳格なクラシック音楽は「調」「音階」という相対的基準による素材を使って「旋律」や「ハーモニー」という韻文的なルールに則って音楽を構成しています。従ってこのような音楽を理解するためには相対音感と機能と声感が必要になります。

それに対して前衛的な音楽は音同士の「有機的結合」を避け、無機質な単音や同時に鳴る複音の響きの変化を散文的な秩序として取り入れていますので、絶対音感的感覚で聴かないと何のことかわからないのです。

多くの作曲家や演奏家がそれらの音楽の間に大きな隔たりがあることを感じておりながら、時流に妥協して不本意な演奏や作品を発表しているケースもあるでしょう。ニューヨーク生まれの現代を代表する作曲家であったサミュエル・バーバーの「弦楽合奏のためのアダージョ」を聴くと新しさと懐かしさが見事に調和していることを誰もが認めます。

20世紀の多くの演奏や作品はその斬新さと革新性をもたらしてくれましたが、新しいものがすべて良いわけではないように(当然古いものがすべてよいわけでもない)やがて忘れられ淘汰されてゆくものがあるのが文化です。

ヒッチコックなどのスリリングな映画を音量ゼロで無声映画として見て下さい。そこに自分ならどんなBGMを設定するかイメージしてみてください。アクション映画やホラー映画にショパンやモーツァルトのイメージはなかなか重ならないでしょうが、意外と前衛的な現代音楽がピッタリ合うことに気がつくでしょう。「緊張感」や「不安感」さらに「恐怖感」などを表現するためには「禿げ山の一夜」ですら美しすぎるのです。つまり安らいでしまうのです。

無機質な物質文明に対する揶揄として現代音楽の存在意義は高い反面、時代を超えた人間の感情や心をロマンの実現のためにサポートする音楽は幸せのメッセージを運ぶ音楽として普遍的なものがあると思うのです。

相対音感はそのような個人の思い出やあこがれの感情と連動するスキーマ(記憶の構造)として強化されます。つまり、コンピュータにはない「感情」や「意志」と関係のある能力なのです。

言い換えれば絶対音感が極めて無機質な音感であるのに対して、相対音感は感情によって認知される極めて人間的な音感なのです。その感情の動き(情動)を喚起することこそが音楽の目的なのです。

埋め込みされた保護文書

ファイル<http://www.art.hyogo-u.ac.jp/hrsuzuki/DOC/onkan.pdf> は、この文書に埋め込まれた保護文書です。表示するには、押しピンアイコンをダブルクリックしてください。

